

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社 刈谷ケアサービスさくら)
 事業所名 (短期入所生活介護さくら)
 サービス種別 (短期入所生活介護)

| | | | | | |
|--|------------------------------|-----------|----------|----|-------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 | | | ・ | 1 / 2 |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | | | |
| 令和4年1月31日 | 『眠りスキャン』 | | | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 | | |
| 令和4年1月15日 | | 令和4年1月31日 | 令和 | 年 | 月 |
| | | | 令和 | 年 | 月 |
| | | | 日 | から | |
| | | | 日 | まで | |
| 【見守り機器の使用状況】 | | | | | |
| <p>短期入所生活介護にて居室 (20 部屋) に『眠りスキャン』20 台導入する。 利用者様の睡眠状態をモニターで確認出来る。 スマートフォンで見守りセンサーの情報が見れる。</p> | | | | | |
| 【整備効果】 | | | | | |
| (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) | | | | | |
| 〈介護従事者〉 | | | | | |
| 『眠りスキャン』導入で利用者様が寝ているか分かるため、2 時間ごとの巡回していた回数を軽減できた。 | | | | | |
| 利用者様の体調等は巡回しないと分からなかったため、精神的不安があったがモニターで、「呼吸・心拍数」が分かるため安心できるようになった。 | | | | | |
| ベッドから降りたことも分かるため転倒のリスクも減った。 | | | | | |
| 〈利用者様〉 | | | | | |
| 巡回の際にモニターで睡眠中の利用者様の居室は時間をずらし訪問するなど、職員が居室に入る回数が減ったおかげで「良く寝れるようになった」などのお声は頂いています。 | | | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 介護職員 6 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人 | 介護職員 5 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 介護職員 5 人・看護職員 1 人・夜勤 1 人 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンを持つことで、施設の中どこでも見守りセンサーの情報が確認できる。 ・利用者様の状態（睡眠・覚醒）の変化に素早く気づき対応する事で転倒・急変の防止 ・夕食後、居室に誘導し臥床させる際、帰宅願望などで不穏のなる利用者様を変化が分からなかったため、遅番職員に残業して貰っていたが、モニターで確認できるようになり、残業時間の減少に取り組めた。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・巡回回数を減らす事により、職員の休憩時間の確保が取りやすくなった。 ・モニターによる確認で職員の肉体的・精神的な負担が軽減した。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・巡回時間にとられていた時間に、他の仕事の時間に充てれるようになり、作業効率アップ ・職員の休憩時間確保が以前より出来やすくなった。 ・利用者様が安全に利用出来るようになり、ご本人様・家族の満足度が上がった。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会医療法人杏嶺会)
 事業所名 (老人保健施設やすらぎ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|--|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年1月11日 | 眠りスキャン | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年1月11日 | インカム連携 | 令和4年1月11日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| 【見守り機器の使用状況】 眠りスキャンでの覚醒検知、離床検知が随時インカムに連動する事で対応を即座に判断が出来るようになっている。 | | | |
| 【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) インカムで通知がある事で不要な方室が軽減できている。 オムツ交換、トイレ介助の場面で睡眠の妨げにならないように対応している。 | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 夜間の介護職員 4 名と看護職 1 名の計 5 名体制 | 夜間の介護職員 3 名と看護職 1 名の計 4 名体制 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 夜間の介護職員 3 名と看護職 1 名の 4 名体制 夜勤職員を減員する事で、昼間勤務者数の増加 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の ICT 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 眠りスキャンとインカム連携を導入し夜間帯の介護職員を 1 名減員した。 それにより、昼間勤務の人員を増やし、利用者に必要なケアに充てられ、職員間の連携、委員会活動に時間を充てられている | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| 現状、介護ソフトをタブレット端末でどこでも記録できる事とインカム、見守りセンサーを同時に使用することで、不効率な業務を排除して、業務のスリム化に取り組んでいる。 また、利用者には個別性を重視したケアをするような指導も行っております。 休憩時間はインカム等を駆使して、ケアの必要性の低い時間帯を職員間で連携して、時間を作りだしている。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 介護業務の分業化を推奨している。間接業務はスリム化して、直接業務に時間を費やせられる環境を作り、コミュニケーションの場以外では誰がやっても同じ成果になるよう期待したい。 | |

別添1—(通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書（その1）

法人名 （株式会社さちコーポレーション）

事業所名 （グループホームさち）

サービス種別（認知症対応型共同生活介護）

| | | | |
|------------|------------------------------|------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年12月13日 | 眠りスキャン・eye | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月10日 | | 令和3年11月10日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- ・全利用者を対象に、全時間帯で稼働
- ・夜勤職員の見守り業務の負担軽減・効率化につなげている
- ・画像としてデータ蓄積されており、転倒等の状況確認にも利用

【整備効果】

（介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等）

- ・事業所内すべてにおいて無線LANへの接続を確保することで、利用者の異変を速やかに気づくことが出来るようになっただけでなく、介護記録をつける際にも、どこにいてもスムーズに記録がつけられるようになった

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 0.9 : 1 | 0.8 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 1 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 職員の退職・異動等が今後発生することから、人員変更前に交代職員を増員したため | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避けた ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった利用者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進した | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、利用者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行った ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC・モバイル端末にて、リアルタイムの各利用者様の状態確認ができるようにした ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更した ・睡眠リズムのデータを医師と共有し、状態にあった睡眠導入剤の処方や見直しを行った | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や利用者様ごとに合わせた個別ケアがさらに改善された支援となる ・利用者様を無駄に起こすことがなくなるため、利用者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・利用者様の睡眠時間確保できるようになれば、利用者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる | |

別添 1—(通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その 1)

法人名 (社会福祉法人幡豆福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームレジデンス宮崎)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------------|------------------------------|-----------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 . 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 2017 年 7 月より導入 | 離床センサーマット | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和 4 年 2 月 21 日 | 28 台 | 令和 4 年 2 月 21 日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

以前から、利用者の転倒予防等のために、離床センサーマットを活用しているが、このシステムではピッチを持っている職員にしか知らせる事ができなかった。

現在は通信環境 (Wi-Fi) を整備しインカムを活用する事となり、これにより職員がすぐ連絡をとりあい、近くの職員が現場にすぐ向かい事故を未然に防ぐことが可能となった。

また、インカムで先輩職員に相談し指示を受け適切な対応をすることも可能となった。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

当初は、インカムを装着することによる耳の不快感を示していた職員もいたが、徐々に慣れ、職員の連携により食堂など入居者が過ごしている場所での職員の不在時間が減少した。

また、離床センサーへの対応も早くなり転倒前に発見することもできるようになった。

職員間の申し送りも、業務を行いながらできるので、動線も短くなり効率的な動きができるようになり、職員の負担も減少している。

何より、いつでもどこでも誰かに相談できることが職員にとってとても心強い環境になった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|---|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2ユニット（協力ユニット）の介護職員数 常勤7名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名 | 2ユニット（協力ユニット）の介護職員数 常勤6名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名 ※1名の職員をユニット所属しないフリー介護リーダーとして自由に各フロアーを行き来できる職員配置。 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| まだ現在は、整備前と同じ2ユニット（協力ユニット）の介護職員数常勤7名（夜勤行う）、嘱託1名（8時間）、非常勤2～3名体制。さらに職員連携システムが構築すれば、1名をユニット所属しないフリー介護リーダーにする予定。 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| まだ、インカムを活用した職員連携が十分に出来ていないためさらに連携強化してから取り組んでいく為。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・離床センサーが鳴った場合、ピッチを持っている職員と近くを通りがかった職員が同じ居室を訪室していたが、インカムで連絡し、近くを通りがかった職員が対応とのルールにした。 ・利用者コールに対して、他の介助で手が離せない状況になっていたら、必ず他者にその場で応援を依頼するシステムをルール化した。 ・新人職員などが迷ったり、あるいは指示を受けたい時に、インカム活用による相談指示とし職員の動線を短くし、無駄な動きを軽減等々業務の効率化をはかった。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・インカムを活用し、すぐ他職員を呼ぶ事ができることで、2名での介助がやりやすくなり利用者の安心感と職員の身体的負担を軽減させ、入浴時の応援等実施している。 ・職員間のノートによる申し送り事項はインカムで行い他職員（看護員、生活相談員、栄養士も含め）との情報共有も含め適切な利用者へのケアを行っている。 ・上記のように業務を行いながらの情報共有による効率化を図り、特に夜勤帯の休憩時間の確保を行う。可能であれば、職員の有給休暇取得日数を増やすことに努めている。 ・職員間の日頃のコミュニケーションを深め、お互いの意見などをインカムで話し合う事を習慣とし業務の効率化を図り残業をしない職場環境に努めている。 ・1名介助でやってることを、互いに連絡をとりあうことにより2名で対応し職員の腰痛予防を含めた負担の軽減や認知症者へのチームケアも充実させるよう努めている。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>利用者の要望に素早く、適切に対応できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員（特に新人）の業務中の不安が先輩職員にその場でインカムを活用し指示を仰ぐことにより軽減できる。 ・夜勤中に関しても、いつでも応援を気楽に呼ぶことができる体制を構築し職員の負担と不安を軽減できる。 ・1人で業務を行っているのではなく、施設全体が組織として介護を行っている施設にできる。 <p>このような事から、不安、過度な負担の身体介護による離職予防に効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにより、いつでも、どこでも相談、助言ができるシステムは新人職員の不安軽減に大きく貢献する。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (特定非営利活動法人るんるん)
 事業所名 (グループホーム「風楽里」)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

| | | | |
|-------------|------------------------------|-------------------|--------------------------|
| @「適用を受けた補助率 | | 3 / 4 ・ 1 / 2 | |
| 見守り機器の導入日 | | 見守り機器の製品名 | |
| 令和3年12月16日 | | 見守り支援システム「眠りSCAN」 | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年12月16日 | | 令和3年12月16日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

2021. 12. 16～現在まで24時間パソコンでデータ管理をしている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)利用者理解につながっている

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 夜勤者1名 | 夜勤者1名 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 変化は特になし | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 見守りセンサーを利用して人員が削減されたわけではないが、利用者の行動を知り、理解し。スタッフの心理的なストレス軽減につながればと実施したので、初期の目的は達成されていると思います。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>導入以前は覚醒するたび、訪室して声掛けしたり、ほぼ一晩中マンツーマン対応し休憩時間もなくなりスタッフは大きなストレスを感じていた。</p> <p>眠りSCANのモニタリングをすることで、介入してもしなくても睡眠にはあまり変化がなく利用者自身もスタッフの介入がストレスとなり睡眠の妨げになっている要因ではないかということが分かってきた。</p> <p>これは利用者のケアの質の向上に大いに役立っていると思われる。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>今後は対象となる利用者を変更したり、モニタリングを継続していくことで利用者理解が深まることを期待している。</p> <p>利用者が良い睡眠を得られるよう、家族・かかりつけ医・スタッフ間で話し合う1つの材料として使用していきたい。</p> | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人清明福祉会)
 事業所名 (建国ビハーラてんまん)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

| | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年1月 | 眠りスキャン | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年1月13日 | | 令和4年1月13日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- ・フロアごとのWi-Fiを強化した上で、各フロア会議で決議したデータ取りの必要性が考えられる利用者2名の眠前薬服用後以降の入眠、覚醒、起床状況の把握とデータ取りとして使用。
- ・日付別で細かな入眠、覚醒、起床データの見える化と振り返りデータとしての蓄積。
- ・訪問診療時にDrへのデータ提出 (お薬の効果の見える化)
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- ・Wi-Fiが別途「眠りスキャン」専用で設置されたことにより、介護記録に使用しているタブレットとPCの通信が早くなり良くなったと感じる職員が多く、入力時間の効率化につながった。
- ・日々、利用者2名の入眠、起床状況の細かな把握と連続的なデータ取りができる点。
- ・過度な巡視、見守りを行う事で利用者の入眠のさまたげになる不安が解消される。
- ・PC画面上で利用者の覚醒タイミングを早期把握が可能となった点。
- ・ベッドセンサー以上に細かな体動に対する反応があり、夜勤者がPC画面を見ている時であれば、よりリアルタイムな対応につながっている。
- ・データの蓄積がすぐに見える化される為、協議検討のスムーズ化につながる。
- ・ベッドセンサーの代替機としての候補のひとつとなり得る可能性の考察ができた点。
- ・居室内スペースのさまたげにならない点。
- ・臥床時の呼吸や心拍のリアルタイムでの把握が可能。
- ・夜勤者の不要であった場合の居室訪問回数の軽減。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 介護・看護職員の人員配置 3.87:1 | 介護・看護職員の人員配置 3:1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 介護・看護職員の人員配置 5.5:1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 利用者の重度化に対応するため、人員の増加をすすめた。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 夜勤帯の巡視回数を見直し、職員の負担を軽減させた。 利用者の重度化に対応し、体調の変化や急変時にバイタル測定をし、データ化する。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| 利用者の睡眠、覚醒の状況を把握することで、排泄介助、起床介助のタイミングを計り、利用者の生活リズムに合わせたケアの取り組み。 夜間帯の過度な巡視を減らす。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 夜間帯の巡視回数を減らし、職員の夜間帯の休憩時間を確保する。 利用者ごとの生活リズムを把握し、個別ケアを実践できる。 | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 長生福寿会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 二方の郷)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|------------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月1日 | HitomeQ ケアサポート | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年12月15日 | — | 令和4年2月25日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

2月は、見守り機器を整備しつつ、通信環境整備を並行して行い見守り機器方のデータが正確にサーバー等に送られるかを確認した。併せて、3月からの正式稼働に向けて、職員に対する機器の使用方法等の定着支援研修を行った。また、利用者ごとの特性に合わせた通知設定の検討を行った。

3月1日から正式稼働を行い、勤務職員が起床、離床、転倒、呼吸なしの通知をiPhoneで受けるとともに通知内容に応じて居室に駆けつけ利用者へのケアに生かしている。

通信環境は、全館にWi-Fi 得緒設置し、各部屋とも支障なくデータを記録することができている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

今までわからなかった利用者の行動パターンがわかることがあり、ケアに生かすことができている。

利用1か月のため通知記録から訪室の必要性を的確に判断していくのには、もう少し時間が必要と考える。

転倒時の通知画像により転倒の原因が、わかることで転倒防止につなげていけるよう工夫していく必要がある。

転倒リスクの高い方への高感度モードの設定等個々人に合わせた修正を行っていくことが重要。

夜間の訪室を工夫することで利用者の睡眠確保につながると考えられる。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|---|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 夜間勤務体制 8名 | 夜間勤務体制 6名(25%の減) フロアをまたいだ駆け付けにより2ユニットで1名体制とする。 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 夜間勤務体制 6名(25%の減) フロアをまたいだ駆け付けにより2ユニットで1名体制とする。 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>1フロア3ユニットの施設構造のため、現在、フロア2名で夜間勤務を行っている。</p> <p>HitomeQ ケアサポートを導入することで離れた場所でも複数同時に、早期に映像確認ができるため、フロアをまたいだ駆け付けが可能になる。これにより、例えば、奇数階の介護職員を1名ずつ減らす形での運用が可能となる。これにより介護職員の勤務体制の見直しを行うことで他の時間帯の介護体制(入浴時間帯等)の効率化も図っていく。</p> <p>スマートフォンから現場で直接ケア記録の入力を行うことができれば紙での記録を削減ができる。また、場所を移動してのケア記録の作成がなくなることで記録漏れやあいまいな記録にならないようにしていく。紙による報告がなくなることで施設全体の事務の軽減につながり、介護の質の向上に時間を割くことができる。</p> <p>(iPhone 導入内訳 医務7台 介護35台 事務2台 緊急連絡2台)</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>夜間の巡回回数：合計8回⇒4回(50%の減)</p> <p>記録ソフトとの連携ができれば、記録作成業務のタイミングを見直すことで、残業時間を一人当たり1日30分短縮する。</p> <p>夜間以外では、介護職員の日中配置する人員を、利用者2人に対して職員1名程度としている。</p> <p>現状から、下記の人員体制へ</p> <p>介護職員：日中40人程度⇒36人(10%減)</p> <p>利用者のケアの質の向上を目指す検討会を2ヶ月に1回開催して現場にフィードバックすることで、ケアの質の向上を図る。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>1時間に1回の夜間巡回の負担軽減により介護職員の精神的・身体的負担の軽減が図れる。</p> <p>夜勤回数の減により休暇等の取得増につながる。</p> <p>利用者の方の居室への訪問回数が減ることで安眠できる時間が増え利用者の方の満足度が上がる。</p> <p>日中の見守りの負担軽減により、入浴介助など必要となるケアに人員を割くことができ利用者の方の満足度が上がる。</p> <p>日中の空き時間が増えることで新人など経験年数の短い職員へのOJTへの取り組みを行う時間が取れることになり職員の能力向上につながる。</p> | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人杏園会)

事業所名 (介護老人保健施設かなやま)

サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|------------|-------------------------------------|------------|----------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年10月14日 | アイコム製 デジタルトランシーバー (イヤホンマイクロホン含む) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年10月14日 | 7式 | 令和3年10月14日 | |

【見守り機器の使用状況】

現行製品に7式を追加導入したことで、入所フロアの現場職員全員 (介護職・看護職) が常時インカムを携帯している環境となった。

これにより離れた場所で業務している職員同士が全員で、漏れなくタイムリーな情報を共有可能となっている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

タイムリーな確認作業等が、離れた場所にいる職員同士でも可能となり、利用者をお待たせする事が減少し、業務のムダ・ムリ・ムラを抑制することで役割分担が明確化されている。時間外労働時間については、一概にインカムだけで削減できたとは言えない部分もあるが、昨年度と一昨年を比較すると、約30%削減できている。このことから、職員の心身のストレスは緩和されているのではないかと考える。

また、コミュニケーション機会を多く持つことで、チーム意識向上と見守り体制を強化させたが、昨年と一昨年を比較し転倒事故の発生件数に大きな変化はなかった。

在宅復帰機能の強化については、当初の目標には及ばなかったが、入所前後・退所前・退所後訪問の実施割合が月平均66.5%達成できているため、老健本来の役割である、利用者の「自宅で生活したい」という希望を実現できているのではないかと考える。

新型コロナウイルス感染予防対策 (換気・消毒作業) においては、時間的・精神的な余裕が生まれたことで日々継続できしており、結果として感染は確認されても、その拡大は最小限に留めることができている。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 入所部門) 介護・看護職員数： 46.4名（常勤換算） | 入所部門) 介護・看護職員数： 45.4名（常勤換算） |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 入所部門) 介護・看護職員数： 46.2名（常勤換算） | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働の削減は達成できたが、新型コロナに対応したこともあり、見込通りに人員を削減することは困難であった。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・介助に応援が必要となる場合や、個別ケア中に他職員へ情報を伝えたいことが生じたとしても、に、その場を離れず他職員への応援要請や情報連絡を迅速に実施している。 ・ナースコール等の呼出しに対してどの職員が駆けつけられるのか、その場から確認できるため、途中で持ち場を離れる事を減らしている。 ・コロナ感染予防対策（定時のフロア消毒・換気）の担当職員を確保している。 ・委員会活動や各フロア会議に予定通り参加できるよう調整している。 ・1F事務所から各フロアへの固定電話での内線連絡をインカムでのやり取りに変更したことで、フロア職員の手間を減らしている。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への直接介助中に他利用者からの突発的な呼び出しに対して、本来の持ち場を離れることなく目の前の利用者に継続してケアを提供でき、効果的な自立支援が可能となっている。 ・処置が必要な場面等で、看護・介護間の連絡をその都度迅速に行う事で、一早く処置することができている。難しいケアの際もすぐに応援を依頼することが可能となり、結果として利用者の残存能力を活かしたトイレ・食事・入浴介助ができている（利用者を待たせてしまう事も減少している）。 ・処置が必要な場面等で、看護・介護間の連絡をその都度迅速に行う事で、一早く処置することができている。 ・タイムリー、且つ簡単に相手（ご利用者・他職員）の所在を把握できるため、確認の時間的な手間が減少しており、結果として身体的・精神的な疲労が減少している（遠くの職員を大声で呼ぶ事も無い）。 ・利用者様の個人情報インカムで発信できるためプライバシーを保護できている。 ・人員の必要となる早朝の起床介助と入浴介助について、職員同士のタイムリーな連絡により余裕を持ちながらケア（介助応援の依頼やフロアと浴室の移動介助等）に介入でき、そこに費やす時間を削減している。 ・新型コロナの影響で予定通りに勤務できない職員がいても、他フロアへ応援を要請することで、その都度自フロアの応援を依頼している。結果として計画通りに業務をすすめられ、コロナ禍でも職員の休憩時間を確保している。 ・LIFE へのデータ提出作業が増加しているが、十分な休憩時間が確保できている。 | |

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

- ・利用者への個別ケアに集中できる時間が増加している。
- ・利用者を待たすことが減少している。
- ・老健の本来の役割である在宅復帰、在宅支援機能を維持、または更に促進できている。
- ・LIFE へのデータ提出を継続でき、報告件数も増やすことができている。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策を継続できている。
- ・職員の身体的、精神的なストレスを緩和できている。
- ・モチベーション高く仕事へのやりがいを感じながら業務を続けることができている。
- ・有給休暇の取得率が向上している（約 10% 取得率向上）。
- ・時間外労働時間が減少している（約 30% 削減）。今年度は更に削減していきたい。
- ・ライフワークバランスを良い状況で維持できている。
- ・離職率を低い水準（3%）で維持できている。
- ・昨年度に比較し、今年度は転倒件数の減少につなげていきたい。

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 福寿園)

事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわりの街)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------|---|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 見守り支援 | HitomeQ ケアサポート コニカミノルタ製 QOL ソリューションズ | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月14日 | | 令和4年3月14日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- ・全個室に見守りを目的としたセンサーカメラを設置。
個別設定を行うことで、リスク回避ができ静止画・ライブ映像で確認ができるため職員の行動の無駄と入居者の睡眠の妨げを防ぐことができます。
- ・スマートフォンの利用に変更となり、職員が慣れるまで十分に活用できるまで時間が必要であるが、転倒時の自己分析含め対策を想像で考えるのではなく映像で見た上で対策が経てることのできることで再発防止に活かすことができている。

【整備効果】

- (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
- ・センサーマットを使用していたが、個別設定で起床時・離床時で設定ができるためリスクの高低でセンサー管理ができている。
更に、ライブ映像で確認ができるので無駄な訪室が無くなり、職員・入居者ともに負担の軽減を図ることができている。
 - ・居室内での転倒事故では、事故前後の動画が原因の確認から確実な対策が可能となった。
 - ・職員個々がスマートフォンを持つことにより、内線の無駄がなくなり職員の行動を止めることなく連絡が可能となった。
 - ・引継ぎでは、ケア通知のチャット機能を活用し情報の伝達から集約まで行うことが可能となり確実に行うことが可能となった。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 137人 | 137人 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 変更なし | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 導入前研修に全職員が参加できるように勤務の調整を行い、5日間の勉強会の開催を行った。また、iPhoneを触り研修ができたことでイメージができスムーズなスタートがきれた。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| ケア通知のメッセージ掲示板を使用して、職員間の引き継ぎを行っている。 出勤時に前日の詳細や特記事項が分かるため助かっている。また、今日起きたこと等を掲示板に載せることで施設全体の状況が把握できるため情報の共有が今までよりも確実になった。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 入居者の個別設定が可能になったことで事故件数は減っている。 しかし、ケアコールの正しい確認方法ができず事故につながるケースもあるためLive映像を確認するように促している。また、ショートステイが30床あるため個別での設定が困難であり、全通知にしていることからコールに追われ確かな使用ができず振り回されてしまう現状がある。ショートステイに関しては、検討の余地があり今後の課題となっている。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人フジタ)
 事業所名 (介護老人保健施設フジタ)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|------------|------------------------------|------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年12月16日 | a a m s (株式会社バイオシルバー社製) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年12月16日 | | 令和3年12月16日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

見守り支援システム (a a m s) 10台を2階フロア (5台) と3階フロア (5台) に分散させて使用している。

其々のフロアにて集中管理パソコンにてモニタリングをしている。

そのデータ収集に新たに導入したW i F i インフラを活用している。

ほぼ、全居室を網羅し、どこの居室にでも a a m s を設置してもデータ収集は可能となった。

【整備効果】

(時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

体動時、センサーが鳴らないことが多々あった。

センサーが鳴らず、巡視時伺うと動いてしまう事がある。

何度か「主任・科長」が確認を行っても反応がないときがあった。

転倒リスクの可能性があるので、その部分を今後は改善して頂きたい。

電波状況等には問題はないが、センサー設置方法に問題があり、職員への研修が必要である。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|---|
| <p>① 従前の介護職員等の人員体制</p> | <p>② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制</p> |
| <p>介護職員数：50名 常勤換算数：45.9名</p> | <p>介護職員数：50名 常勤換算数：44.0名</p> |
| <p>③通信環境整備後の介護職員等の人員体制</p> | |
| <p>人員体制については現在フル活用出来ておらず、使い慣れていないが為に体制に変化が現時点では見えない。</p> | |
| <p>②と③が異なる場合はその理由</p> | |
| <p>職員により、能力の差がある為、思う様に活用できていないためと考えられる。</p> | |
| <p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p> | |
| <p>現在導入途中で見守りセンサー(アームス)のみ使用で使い方が分からない職員が多い為、ご入所者様だけではなく、職員がベッドへ横になったり、反応の確認や使用してどの様に活用出来るのか、「ミーティング」を行っている。</p> | |
| <p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p> | |
| <p>夜間入眠時、覚醒状態や呼吸/心拍数のデータを参考にし、巡視時、見守り時は強い光をあて又声掛けなしに生存確認が出来て夜間の良眠につながっている。職員の負担軽減については各職員が取り扱いを把握しなければいけないと考えられる。</p> | |
| <p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・センサーが反応せず、ベッドから起き上がって数歩歩く事があったので、今後はセンサー感度をあげて反応しやすくして欲しいと思った。 ・体重の軽い人にはセンサーが反応しない事があった。体重制限があるのかが知りたいと思った。 ・職員が使い慣れていないため、「研修」が今後は必要だと思った。 ・覚醒状態が分かる様に反応しやすくして欲しいと思った。 | |

別添-1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 祖父江愛照会)
 事業所名 (介護老人保健施設 ベストライフ祖父江)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|---|------------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | | 3 / 4 ・ 1 / 2 | |
| 見守り機器の導入日 | | 見守り機器の製品名 | |
| 令和4年2月25日 | | 『ライフリズムナビ+Dr.』 (エコナビスタ) | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年2月25日 | | 令和4年1月6日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていても、通信できていない部屋がある。 ・導入後、音声が入らない状態だった。 | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸、脈拍のデータから早目の訪室ができ、早期発見ができた。 ・通信状態の悪い部屋にいる利用者様は、転落・転倒リスクがある。 | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 3 : 1 | 2.8 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 3 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 導入より期間も短い為、体制の変化には至っていない。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 体動などの通知があった際、早目の対応ができる。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの件数は、少しずつではあるが、減ってきている。 ・夜間の訪室回数は減り、利用者様の体動、入眠状態が確認できるようになった。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>システム導入して間もない為、利用者様の排泄のタイミングがつかめないのが、今後は状態把握ができると思います。</p> <p>全ての利用者様の脈拍、呼吸数が確認できるため、異常時の早期発見ができる。</p> | |

別添 1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その 1)

法人名 (医療法人社団喜峰会)

事業所名 (ショートステイけやきが丘)

サービス種別 (短期入所生活介護 (単独・併設型))

| | | | |
|--|------------------------------|-----------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和 3 年 12 月 24 日 | 眠り SCAN (パラマウント社製) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和 4 年 2 月 22 日 | | 令和 4 年 2 月 22 日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| 【見守り機器の使用状況】 通信環境の整備として無線 LAN 環境を整備し、居室内のセンサー使用しリアルタイムにご利用者様の状態を確認することができている。 | | | |
| 【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) 通信環境を整備することにより、リアルタイムで呼吸数などをモニタリングすることができている。 リアルタイムで状態を把握することができるようになり、介護職員の精神的負担を軽減することができている。 | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 1.9 : 1 | 2.3 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2.0 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 導入しまだ4か月であるため、まだ変更はないが、今後上記のように体制を整えていきたい。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 呼吸数などをリアルタイムで確認できるため、巡視に係る時間を削減している。 夜間の状態は、自動的に記録されるため、記録に係る時間を削減できている。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| ご利用者の睡眠パターンを確認することにより、睡眠を妨げずに状態確認をすることができている。 睡眠のパターンを可視化することにより、受診時に主治医へ現状を報告することができている。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 起き上がった状態などでアラームを鳴るようにし、転倒転落予防としても使用できるようにしていきたい。 夜勤スタッフの精神的・身体的負担を軽減することができると思われる。 | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書（その1）

法人名 (社会医療法人 大雄会)

事業所名 (老人保健施設 アウン)

サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|-----------|---|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年2月21日 | 見守り介護ロボット aams 介護セット (JC-19) B018-AAMSSKS | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年2月21日 | 35台 | 令和4年2月21日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

【aams について】

aams6 台を各入所フロアに設置 (2階3台、3階2台、4階1台)。

《対象ご利用者》

- ・看取り対応利用者
- ・体調不良により、頻回な状態観察が必要な利用者
- ・睡眠や覚醒状況の把握が必要な利用者
- ・離床した事の把握が必要な利用者

導入から現在までに、7名の利用者に適用。

【インカムについて】

インカム 35 台とイヤホンマイク 80 本を各所に配置し、当日の出勤職員が使用。
(2階10台、3階10台、4階7台、浴室8台)

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

【aams ついて】

- ・看取り対象者への夜間帯における訪室回数が、3~4回から0回へ減少。
- ・離床センサーを対象利用者の状態に合わせてアラームセットし対応。
- ・夜間の排泄介助(オムツ交換)に対して介助拒否する利用者に対し、覚醒時間を把握する事で睡眠を妨げることが少なくなり、スムーズに介助出来るようになった。
- ・呼吸状態を把握する事が出来、異常の早期発見や、対象利用者にとって適切なタイミングにて喀痰吸引等を実施する事が出来た。
- ・訪室回数が減り常時生体状況が把握できた事で、職員の精神的身体的負担が軽減した。

【インカムについて】

- ・利用者からのナースコールに対して対応するスタッフの重複が無くなった。
- ・電話取りつぎの際にかかる時間の短縮が図れた。
- ・大声で他スタッフを呼ぶことが無くなった。
- ・特定のスタッフを探しやすくなった。
- ・入浴誘導時、利用者衣類等の不足品を他階に連絡し、利用者をお待たせする時間の短縮。
- ・看護職と介護職間の情報伝達に使用でき、スムーズな対応が可能となった。
- ・スタッフの業務開始及び終了時等の連絡に使用する事で、スタッフの所在確認がスムーズに行えるようになった。
- ・業務指示や報告に使用する事で、速やかに業務に入ることができた。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 1:1 | 0.75:1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 1:1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 導入開始後からの運用期間が短い為、今のところ目に見えた人員体制の効果は、まだ見られない。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>【aams について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用方法について業者による説明会を2回実施。 ・説明会を受けたスタッフがフロアにて伝達。 ・フロア内で環境整備し受信機器設置。 ・対象者選定。 <p>対象者別の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 看取り対応の方（生体情報を把握） 体調不良の方（生体情報を把握） 睡眠・覚醒状況を把握する方（覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助） 離床を把握したい方（転落予防） <p>【インカムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のナースコールに対してスタッフが重複しないように連絡しあった。 ・電話を取り次ぐ際に呼び出しに使用。 ・特定のスタッフに連絡する時に使用。 ・入浴誘導時、利用者の不足品を他階に依頼する際に使用。 ・看護職と介護職間の情報伝達、確認に使用。 ・業務開始時、終了時の連絡によりスタッフの所在確認。 ・その他、業務指示や報告等に使用。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>【aams について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体情報を把握することで、他利用者への早期対応が可能になった。 ・訪室回数の軽減により身体的負担が軽減された。 ・状態変化の把握ができることで職員の精神的負担が軽減された。 ・睡眠や覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し安眠につながった。 ・覚醒状態を把握することでスムーズに介入できた。 ・転落予防にて使用し、転落はなかった。 | |

【インカムについて】

ナースコールに対応する際に「コールに対応します」とインカムで伝えた。
休憩または業務に入る際に責任者を探すことがなく、インカムを使用し速やかに休憩または業務に入るようになった。

これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること

【aams について】

- ・利用者の生体情報および離床センサー情報、覚醒状況の情報の共有により入所フロア全体でのスタッフの協力体制の確立が期待できる。
- ・訪室回数の軽減により、職員の休憩時間の確保ができる。
- ・状態変化の把握ができることにより、職員の更なる精神的負担・身体的負担の軽減が期待される。
- ・覚醒状況を把握して覚醒時に排泄介助し睡眠を妨げることがない為生活の質が向上する。
- ・入所者の睡眠のリズムが把握でき日中のケアのアプローチができる。

【インカムについて】

- ・利用者の情報共有を迅速に行え、対応が早くなり、利用者をお待たせする事により発生する精神面の不安や苦情発生リスクの軽減に繋がると期待できる。

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その 1)

法人名 (社会福祉法人樹の里)
 事業所名 (地域密着型特別養護老人ホームルフレ樹の里)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

| | | | |
|------------------|------------------------------|------------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 平成 31 年 4 月 5 日 | 眠りスキャン | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和 3 年 12 月 27 日 | 20 台 | 令和 3 年 12 月 27 日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- ・インカム使用対象職員を各部署ごとに振り分けて使用している。
- 介護や看護などの多職種が主として使用し、日中用と夜間用に分けている。(当日の職員配置人数によりインカム台数が足りない場合は日中でも夜間用を使用し、常に装着出来る環境を作っている。)
- ・出勤時から退勤時まで入浴介助や休憩時間以外は常に装着する形を取っており、インカムの電池切れを防ぐ為、中央ホールに充電機交換スペースを設け、対応している。
- ・インカム保管場所については職員更衣室前にピンマイクと本体があり、各職員にはイヤホンを配付し、個人管理をしている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・インカム導入前は、職員間の申し送りや声掛けなどを PHS や直接口頭で情報共有していたが、インカム導入以降は、業務や入居者様の状態確認などリアルタイムで情報を発信し、周知を円滑に行う事が出来ている。
- ・介護から看護へ処置などの依頼や他ユニットへの特浴使用時間の確認、休憩に入る時や戻る時なども速やかに連絡が取りあえる為、職員の移動時間、PHS 操作時間の短縮化に繋がっていると感じている。
- ・装着が不慣れでピンマイクが外れてしまう職員もいたが、職員同士で装着の工夫を共有する様子もあり、導入当初と比べて少しずつ操作も含めて慣れて来ている。職員の多くはリアルタイムでの情報発信と共有が出来ている為、コミュニケーションが取れて、安心して業務に打ち込めるとの意見が多く聞かれており、非常に高い満足度である。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 1 : 1 | 0.6 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 1 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| <p>・インカムを導入したことにより、音声による通知で状況が把握することができ、夜勤の休憩などが取りやすくなった等のメリットはあった。しかし、人員体制を削減できるほどの時間を確保するまでには至らなかった。</p> | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>・夜勤では眠りスキャンと連動する設定となっている為、通常のパソコン画面やiPad画面以外にイヤホンから音声検知として知らせてくれる為、手が塞がった状態でも入居者様のベッドからの起き上がりや立ち上がりの状況が認識出来、居室へ向かう事が出来ている。優先を考えた入居者様の対応にも活用出来ている。</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>・夜勤中の夜間時間の休憩について、これまでユニットでの状況に応じて取得する形となっていた。現在はインカムで夜勤職員間の連絡を取り合い、状況に応じて順番を相談して速やかに休憩に入ることが出来ている。</p> <p>・コール対応が複数同時の時は、インカムで速やかな協力依頼をして対応している。</p> <p>・PHS の操作時間や直接夜勤職員へ声を掛けに行く時間を短縮する事が出来ており職員の負担軽減になっている。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>・職員の中でのインカム認識は十分に定着する事が出来ている段階となっており、接触不良や不具合により戸惑う部分はあるものの、他者への連絡通信手段の選択肢が増え、自発的に情報発信するツールとして確立しつつあります。</p> <p>・現時点でのインカム導入効果を強く感じている結果となっており、今後も有効活用していきたいと思えます。</p> | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人春岡会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム丹陽)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-------------|--------------------------------|------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年 12月21日 | 見守り支援システム「眠りSCAN」 パラマウントベッド(株) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年12月1日 | | 令和3年11月30日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- ・ Wi-Fi 工事実施後に導入。
- ・ 「睡眠調査」「安全調査」「看取り対応」の3つの調査をすることを使用の原則とし運用基準を作成する。
- ・ 基本、1利用者につき、1か月間「眠りスキャン」を設置し、データ収集を行い、睡眠状況・夜間の活動状況・排泄パターン等、収集したデータを分析して、オムツ交換のタイミング及び回数の調整・就寝時間の調整を行っている。
- ・ 転倒のリスクが高い利用者には、アラームを設定して、転倒リスク軽減を図っている。
- ・ 看取り期の利用者にもアラームを設定し、早期対応ができるようにしている。

【整備効果】

- (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
- ・ 利用者様の睡眠状況がデータとして見える化されたため、より具体的な対策が打てるようになった。
 - ・ 利用者様も熟睡している時にオムツ交換をすることがなくなったため、起こされることがなく、よく寝れていると評価あり。
 - ・ 転倒リスクが高い利用者様にアラームを設定しているため、人が少ない夜間帯での転倒事故が減った。
 - ・ 転倒リスクの高い利用者と看取り期の利用者の対応は、介護職員の精神的な負担が大きいが、「眠りスキャン」を導入したことで、画面上で、現状が把握できたり、いざという時にアラームで知らせてくれるので、負担が軽減された

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 1. 9 : 1 | 2. 1 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2. 1 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各ユニットにWi-Fi 工事実施 ・各ユニット5台ずつ「眠りスキャン」設置 ・巡視時間の短縮 部屋に訪れることなく、眠りスキャンの画面確認にて巡視完了としたことで効率化を図った。 ・眠りスキャンのデータ分析により、睡眠重視の対応へ変更し、パットの変更で排泄交換をなしできた利用者が平均2名おり、排泄交換時間の短縮となった。 ・転倒リスクの高い利用者には、1時間に1回以上の状況確認をおこなっていたが、眠りスキャン導入後、アラーム対応することで、通常の2時間おきの巡視+アラームが鳴った時のみの対応となり時間短縮することができた。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の状況を分析し、寝れていない利用者様には、日中活動の活性化や睡眠導入剤等を調整し、睡眠時間を確保することができた。 ・部屋に入ってきてほしくないという利用者様に眠りスキャンを設置し、訪室による巡視をなくしたため、利用者様は安心して寝ることができた ・以前は転倒高リスク者・看取りの方への対応が不安などでしっかり休憩が取れなかったが眠りスキャンを導入し、ケア内容の改善及び安心感により、休憩時間がしっかり確保出来るようになった。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・全利用者の睡眠状況等の把握をすることによって、より利用者にあった対応が可能となる。 ・眠りスキャンを導入したことで、データ分析の重要性を再認識することができた。これを機に、眠り以外でもデータを収集、分析をして、対策をとり、より良い介護を実践していくが期待できる。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 成仁会)

事業所名 (特別養護老人ホーム メドック東浦)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|--|------------------------------|---------------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | | 3 / 4 ・ 1 / 2 | |
| 見守り機器の導入日 | | 見守り機器の製品名 | |
| 見守り支援システム | | 眠りSCAN (パラマウントベッド社) | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月31日 | 40台 | 令和4年3月31日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>インカムを40台導入。 特別養護老人ホーム全フロア(2-4階フロア)にて使用。各階に日勤帯用で10台と夜勤用に2台の計12台ずつ設置。 日勤帯(早番から遅番まで)は密接な2ユニットごとのグループ設定にて使用。夜勤用は1フロアでのグループ設定にて使用。 特に夜勤帯では導入に合わせて業務の仕方をインカムの使用を前提としての動き方に変えて運用始めている。</p> | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>現状として、特に夜勤帯の動き方において日中に比べコミュニケーションが取りにくいことによる非効率的な部分が発生していた。導入間もないため本格的に効果が表れるのはもう少し先になるが、インカムの導入により、必要な時に離れた場所からでもすぐに応援を呼ぶことができるなどコミュニケーションが取りやすくなる環境が整うことで業務としての効率化を図ることができるだけでなく、職員の心理的な安心感にも繋がると期待している。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 日中において2ユニットで5.2~6.0 | 日中において2ユニットで4.6~5.0 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 日中において2ユニットで5.2~6.0 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 導入後間もなく体制への反映に至っていない。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ iPad による介護記録入力の効率化 ・ 勤怠、コミュニケーションシステムの導入による勤怠確定や情報共有の効率化 ・ フロアごとの携帯電話支給による円滑な連絡方法の拡充 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ インカムを導入することによって、ご利用者の体調急変や2名介助などが発生する時など、どこからでも応援を呼べるようになる。特に夜勤は少ない体制となるため、すぐに応援を呼べる職員の安心感に繋がる。 ・ 周りの職員と離れていても情報の共有ができるようになるため、申し送りの方法やインカムで共有する情報範囲を整理することで、そこにかかる時間も最小限に抑えることができる。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ インカムの使用に慣れてくることで、情報共有だけでなく、離れた場所での指示や報告、相談も可能となるため活用の幅が広がってくると思っている ・ 効率化を図りながら職員の安心の部分も確保できるツールになると期待している | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (ミソノピア株式会社)
 事業所名 (ミソノピア)
 サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

| | | | |
|---|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月31日 | 眠りSCAN パラマウントベッド | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月31日 | | 令和4年3月31日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金決定後、館内2階～9階にWi-Fi工事を実施し、その後、特定の方に眠りSCANを導入 ・現在、認知症の方、新規ご入居の方に設置使用中 | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内、Wi-Fiが設備されていなかった為、見守りロボットが設置出来ませんでした。この度、受信環境が整備できたことで、見守りロボット導入が実現した ・眠りSCAN以外にも、2階～9階の広範囲で、以前から使用していた電子カルテソフトも入力が可能になり、詰所に都度持ち帰り行っていた作業がスムーズになった | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ①従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2.5 : 1 | 2.2 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2.28 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 実際の職員配置数が、4月30日付けで③の人数である為 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>①見守りセンサー導入により、夜間帯のご様子確認に介護スタッフが細やかにデータ把握をすることで、宿直看護師への状態確認の連絡回数を減らした</p> <p>②モニターによる状況確認が実施できることで、定時巡回以外のセンサーコール対応が減り、夜間帯の少人数職員の休憩時間の確実な確保に繋がった</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新規ご入居の方の夜間帯の生活リズムをスムーズに把握することで、ご本人の不安を減らし、その方の生活リズムに合わせたお声掛け、介護へと質を上げられる 不眠の傾向がある日には、日中の生活をすぐに振り返り、翌日以降のケアに繋げる ・定時の夜間職員の休憩の確保により、業務に対する身体的負荷の軽減へと繋げる | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・導入後、まだ1カ月の時間なので、今後、更に状況を細やかにデータを活用し把握することで、ご入居の方の生活を感じ、先に先に対応していく介護の実現が可能である ・改善が明確になるので、導入台数も今後は増やし、広く活用していく事が可能である | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人緑生福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム南生苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月25日 | 眠り scan、眠り scanEYE | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月11日 | | 令和4年3月11日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

令和4年3月25日に、各フロアに5台ずつ配置し、次の方に対して運用を開始する。

- ・ 認知症等により転倒及び転落のリスクの高い方
- ・ 夜間不眠、日中傾眠のみられる方の睡眠リズムの把握
- ・ 看取り介護等で常時観察を必要としている方

現状は、睡眠、心拍、呼吸状態の観察とデータ収集を中心とし、アラート機能は使用していない。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

導入して1ヶ月しか経過していないが、

- ・ 夜間帯の睡眠リズムをデータとして把握できることにより、不眠状態にあった方々の状況がより明確になり、日中の活動強化、排泄などの夜間ケアのタイミング等を検討しやすくなった
- ・ 常時観察が必要な方々の状態が分かりやすくなったことで職員の安心感につながっている。
- ・ 使用者の状態や状況が分かりやすくなったため、リスクマネジメント意識が高まり、それが安心感につながっている。また、見守りカメラを使用することで状況がより把握しやすくなり、ヒヤリハットの早期発見など、必要時にケアを提供することができ、職員の負担軽減、事故防止に役立っている。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|---|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2.2:1 (夜勤職員 5名体制) | 2.3:1 (夜勤職員 5名体制) (※効率化分は主にケアの向上へつなげる) |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2.3:1 (夜勤職員 5名体制) | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠データ、バイタルデータ等の見守り機能アプリの見方を職員間で学習し、効率の良くケアの提供ができるように職員間で情報共有している。 ・カメラ機能の有効な活用方法を職員間で情報共有している。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のより正確な状況把握のため、睡眠データ、バイタルデータ等を活用している。 ・夜間の職員の負担軽減のため、転倒リスクの高い方について、訪室せずに見守りカメラにて確認している。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・収集データをもとに個別ケアを充実させる。 ・体調悪化等の早期発見につなげる。 ・転倒等の事故の防止や軽減につなげる。 ・職員の安心感や業務の効率化、身体的・精神的負担の軽減につなげる。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社ミズノ)

事業所名 (ひだまりの郷 たけとよ)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

| | | | |
|--|------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | | 3 / 4 ・ 1 / 2 | |
| 見守り機器の導入日 | | 見守り機器の製品名 | |
| 令和3年12月7日 | | 見守り SCAN (パラマウントベッド社製) | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月 26日 | | 令和3年12月7日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】 常時5台使用している。 固定ではなく一定期間を設け、全員分のデータ取りを行っている。</p> | | | |
| <p>【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等) 眠りの質の把握ができ、眠剤を適量に提供できるようになった。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|--|
| <p>① 従前の介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ・遅番 ~21時。早番 7時~。 | <p>② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 ・遅番, 早番の時間短縮。20時~7時30分まで1名対応。 |
| <p>③通信環境整備後の介護職員等の人員体制</p> <p>日勤帯 個室を回るスタッフ2名。 遅番 ~20時。早番 7時まで1名対応。</p> | |
| <p>②と③が異なる場合はその理由</p> <p>入居者30名に対し、5台の運用では起床時間の把握までには至らず、早番の仕事を遅らせるとその後の業務配分に支障があり短縮には至らなかった。</p> | |
| <p>見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠の質の把握でき「眠れてない」と言われる入居者の実際を把握することができた ・眠剤を適量に提供できるようになった。 | |
| <p>利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眠剤を適量に提供できるようになった。 ・心房細動や不整脈の診断を受けている方の実証を確認できた。 | |
| <p>これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること</p> <p>今回の期間ではターミナル期となる方が見えなかったが、今後可視化できる。</p> | |



別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社マザーズ)
 事業所名 (グループホーム円頓寺本館)
 サービス種別 (認知症対応型共同生活介護)

| | | | |
|--|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年1月28日 | 眠り SCAN | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年1月28日 | | 令和4年1月28日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>見守り支援システム「眠り SCAN」を各居室に設置し、Wi-Fi を通じて事務所に設置PCでリアルタイムに各居室の状況を把握している。</p> | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>夜勤者の訪室回数の軽減、覚醒時の素早いトイレ介助など負担軽減となったと介護者から好評です。</p> <p>睡眠の質や心拍数などをデータで把握でき、データ提示により医師との連携が密になり、医師からも処方にも有効との評価をいただいている。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2020年度平均月間労働時間 2200時間 | 平均月間労働時間を100時間削減し、2100時間を目標とする |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 職員の人員体制に変更はないが、休憩の取りやすさや、残業の削減に有効 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。 ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入居者様の情報が入り、タイムリー且つ必要な際にのみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」から「適宜巡視」に変えていき、効率化を推進する。 <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。 余剰の時間に従来他勤務時間帯に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る。</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入居者様の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避ける。覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや訪室を行う。 ・スタッフルームや休憩室にいる間も、PC、モバイル端末にて、リアルタイムの各入居者様の情報を確認する。 ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」に変更する。 <p>※決まった時間での巡視ではなく、入居者様の状況に合わせて巡視を行う。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の状況に合わせたケアを行えるため、ケアの質の向上や入居者様ごとに合わせた個別ケアが実現できる。 ・入居者様を無駄に起こすことがなくなるため、入居者様の睡眠時間を確保できるようになる。 ・入居者様の睡眠時間確保できるようになれば、入居者様からのコールの回数や呼出しが減るため、スタッフの休憩時間確保につながる。 ・巡視方法の変更により、巡視にかかる時間が大幅に減るため、今までできなかった他業務に時間を回すことができる。 | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人青山里会)
 事業所名 (びわじま介護センター)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------|---|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年12月8日 | 見守り介護ロボット「aams」 (株)バイオシルバー社製 | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月24日 | | 令和4年3月24日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- 当該機器については、常に対象利用者のベッド (マットレスの下) に設置して、対象利用者の状況を確認できる状態としている。対象利用者の睡眠状況、心拍数、呼吸数は、PCやタブレットにて確認しており、対象者の状態に変化があれば各機器よりアラート音が鳴動する設定としている。
- 夜間などの臥床中は、タブレットより設定操作を行っているが、対象者の心身状況や日常生活動作レベルや対象者に起こりうる事故リスク等の特性に合わせて、離床時、覚醒時等に、アラート音を鳴動させる設定を行っている。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- 巡回時の訪室の際に、ご利用者を覚醒させてしまい、その後当該利用者に対する対応が必要となることがあったが、介護ロボットを導入したことにより、睡眠の状況をタイムリーに確認することができるため、設置対象利用者には必要な時に適切に巡回を行うことが可能となった。そのことで、覚醒した利用者への対応時間が減少したということでは介護負担の軽減の効果があったと言える。
- 離床時、覚醒時、バイタル異常時等、設置対象者の心身状況、生活行動リズム、それに伴うリスクに合わせたアラート鳴動設定を行えるため、利用者にとっては今までより安心・安全な生活環境の提供に繋がっている。
 また、転倒リスクが高い利用者に対しては、離床時ではなく、覚醒時にアラート音を鳴動させる等の早めの設定を行うことで、転倒事故の回避が高い確率で行えるようになった。
- 設置台数が各ユニットに1台ずつという状況であるため、飛躍的に介護時間が軽減した、介護負担が軽減した、介護従事者の満足度が向上したという状況には、未だ至っていない。介護ロボットの設置台数の増加、介護ロボットから取得した睡眠データやバイタルデータを活かしたケアの方法の在り方を見出すことで、将来的には、利用者の生活を維持、向上させつつ、介護時間の短縮、介護負担の軽減を図ることは可能と思われる。

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人 中野会)
 事業所名 (介護老人保健施設 LA・LA・LA)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|--|------------------------------|------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年11月29日 | リコーみまもりベットセンサーシステム | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月29日 | | 令和3年11月29日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>入所定員100名に対し、常時見守りが必要な転倒・転落等のリスクがある利用者20名程度の中で特にリスクの高い方に対し、日勤、夜間帯両方で2階2台、3階2台、4階2台と各フロアに設置して使用している。</p> | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>日勤、夜間帯共に巡回の回数は変更せず行っている。夜間帯は3名の介護スタッフが2時間に1回の巡回を行い、利用者の状況を確認している。導入した利用者と、導入していない利用者と比較すると、導入した利用者は居室での状況、特に夜間帯の動きが把握できるようになった。今後、いろんな方で試すことで、行動の分析、予測ができ、転倒転落の未然防止に繋がり、事故件数を減少できるのではないかと期待している。</p> <p>また、その場で見守りできることで、介護職員の心身の負担に繋がっている。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 29人 | 29人 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 29人 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| 見守り業務に時間や負担がかかっており、常に周囲を気にしている環境下で、利用者とのコミュニケーションに掛けられる時間が少ない。見守りセンサーを導入後も、人員体制はそのまま継続し、時間が削減できれば、レクリエーションやコミュニケーションなど他の業務に人員を活用し、業務負担の軽減のみでなく、利用者へのサービス向上に繋がられるよう取り組んでいる。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>① 巡視前に見守り機器のモニター画面を確認することで利用者の状況を確認することで、対応の優先順位づけを行っている。</p> <p>② 見守り機器の導入により、利用者の行動分析と予測をし、生活パターンや傾向を理解することができるために、夜間帯で言うならば、訪室するタイミングを調整し、眠りの妨げにならないように対応している。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| もっと多くの利用者に使用し、利用者の行動分析と予測ができていけば、介護職員の心身の負担軽減や利用者の転倒転落の件数を減らしていけると期待している。 | |

別添1--(通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書（その1）

法人名 (社会福祉法人 さわらび会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム さわらび荘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|---|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 2022.3.30 | 眠りスキャン NN-1320 (パラマウント製) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月30日 | | 令和4年3月31日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>見守り支援ロボットが円滑な機能をするために通信環境を整備したことにより、眠りスキャンでの利用者状況、眠り状況の解析ができるようになった。それと同時に館内どこでも携帯等にて介護記録の入力が可能となり、決まった場所での入力に縛られなくなった。それにより介護業務に係る負担の軽減ができた。</p> | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>場所を選ばず通信環境を整備したことにより眠りスキャンで利用者の睡眠状況が確認できるようになった。夜間の睡眠時間等を確認することにより、昼間の利用者の状況の問題可決の要因対策等ができるようになった。</p> <p>夜間の睡眠状態、心拍や脈拍を確認できるようになったことにより、不必要な訪室を減らすことができた。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 夜勤職員の配置基準上 3名（実人数） | 夜勤配置基準上 2.4名（常勤換算） |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 現在まだ夜勤配置3名から2.4名への移行ができていない。 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| コロナ陽性者が利用者、職員に発生し人員的にも利用者の部屋の配置的にも2.4人に移行するのに無理が生じたため終息まで見合わせ中。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・携帯での見守りが可能となり、既存のセンサーマットより早く起き上がり等感知することができ、転倒予防に繋がった。 ・見守り、記録の場所の制限がなくなり場所を選ばず業務ができるようになった。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本来の能力の把握、要因対策、プランの立案により、睡眠状態の改善対策を講じる事が出来るようになった。 ・利用者の心拍数や呼吸数、睡眠状態を把握できるため夜間介護従事者の精神的身体的負担の軽減ができた。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・夜勤従事者の負担軽減により職員んの精神的、身体的負担の軽減。 ・不要な訪室が減ることによる時間の有効活用。 ・利用者の状態を早期に発見できるため転倒や転落等の事故防止。 | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 春生会)
 事業所名 (特養 しょうなあさひが丘)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------------|------------------------------|-----------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和元年 10 月 18 日 | 見守りライフ | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和 4 年 3 月 31 日 | | 令和 4 年 3 月 31 日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

『見守りライフ』 トテックアモニティ株式会社

- ・ 常時 10 人の入居者に対し、ベッド脚下に設置し使用
- ・ その方の身体、認知能力により、ナースコール連動時期を設定
→ 「動き出し」「起き上がり」「端坐位」「離床」
- ・ 早めにコールが鳴る事で、職員が余裕を持って訪室することができる

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

- ・ 以前の Wi-Fi では、機器から離れた方のセンサー反応にムラが生じていた
→ Wi-Fi 環境が整備された事で、確実にナースコールに繋がるようになった
- ・ その事により、訪室が遅れやバッドや稀に事故に繋がる案件があった
→ 確実に訪室できる事で、事故やバッドのリスクが軽減された
- ・ 脈拍や呼吸数、睡眠時間等の計測値も途切れがちだった
→ 連続した数値で表されるようになった事から、本人の行動パターンや睡眠等が把握でき、ケアプランや 24 時間シート等の内容も、更に内容が濃いものとなった

〈補足〉

オンライン面会時の画像・音声途切れも、かなり解消された

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人名古屋ライトハウス)
 事業所名 (特別養護老人ホーム瀬古第一マザー園)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|---|-------------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月18日 | 眠りSCAN・眠りSCAN eye(パラマウントベッド社製) | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月18日 | Wi-Fi デジタルインターカムシステム クリアトークカム 5台 | 令和4年3月18日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <p>職員の業務負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全館、Wi-Fi が繋がるようになり、見守り機能を備えたベッド6台と今回購入した眠りSCANの導入により、全床、何等かの形で訪室することなく見守りを行うことが可能になった。今までは集団介助をしていた夜間のオムツ交換・トイレ誘導は、個別ケアの観点から、利用者が夜間、覚醒したタイミングで実施することができるようになった。 ・眠りSCANでは、利用者の呼吸数や心拍数の把握もリアルタイムで把握できるため、コロナウイルス感染症対策も含めて訪室回数を減らすことができている。 ・今まで夜勤者同士は必要最低限でPHSで連絡を取り合っていたが、インカムを導入したことにより、職員が情報共有をして、役割分担に縛られることなく、動ける職員が利用者の対応をすることができるようになり、夜間のサービスも時間の無駄なく実施できるようになった。 ・今まで、記録業務はスタッフルームでしか実施できなかったが、ノートパソコンをダイルームなどに持ち出して、Wi-Fi に繋げることで、利用者の見守りをしながら記録業務ができるようになった。 <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)</p> <p>特に夜間帯は1時間に1回は全床、見守りのために訪室していたが、訪室そのものを3時間に1回ぐらいに減少し、常にスタッフルームで利用者の状態を確認することができるようになり、見回りに係る時間の削減をすることができる。</p> <p>利用者は、夜間、見守りで起こされることなく、以前よりは熟睡することができるようになった。また、排泄介助のタイミングも一斉だったが、眠りSCANの導入により、覚醒時に合わせることができるようになった。</p> | | | |

※これより下は、補助率「3 / 4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|---|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2. 6 : 1 | 2. 6 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2. 6 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等の I C T 機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の定期巡回以外の巡回を必要以上に実施する時間が削減でき、必要な利用者のところへ必要な時間帯に訪室することができるようになった。 ・全館 Wi-Fi 環境になったことで、今までスタッフルームでしか記録業務を実施できなかったが、その時の状況に合わせてパソコンを移動させて記録をすることができるようになった。 ・今まではナースコール対応をする職員が業務分担で決まっていたが、インカムを導入したことで、手が空いた職員がすぐにわかり、特に夜勤者同士の連携がスムーズになった。 ・緊急時等、インカム使用職員にすぐに情報共有ができ、迅速に動くことができるようになった。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・見守りセンサーを導入したことにより、利用者の睡眠の質を高めることができ、日中の覚醒度が上がった。日中に個々に応じた活動を提供することで、個別ケアの推進に繋がっている。 ・見守りセンサーの導入により、居室の利用者の状況をスタッフルームで管理ができるため、2 巡視にかかる時間を削減できるとともに、事故等も未然に防止することができ、職員が決められた時間にしっかり休憩に入ることができるようになった。 ・看取りケア対象者に対しては眠り SCAN を導入することで、心拍数等の可視化ができ、介護職員の精神的負担の軽減に繋がっている。 ・夜勤者が全員、インカムを付けている状態だと、いつでも必要な時に出勤している職員を呼ぶことができるため、夜勤者(特に新人職員)の精神的・身体的負担軽減になっている。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi 環境が整ったため、今後はタブレットを増やし、更なる記録業務の簡略化が可能である。また、リアルタイムで記録を打つことができるようになる。 ・集団処遇から個別ケアへの転換が可能になる。 ・インカムを上手く活用することで、日勤帯においても転倒・転落事故を未然に防ぐことができると同時に、利用者の異変に気付いた時は迅速に看護師と連絡を取ることができる。 ・いつでも職員に質問できる環境になるため、新人職員の精神的負担の軽減に繋がる。それとともに職員の離職率低下が見込まれる。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人明翠会)
 事業所名 (特別養護老人ホームなのはな苑むつみ)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

| | | | |
|---|------------------------------|----------------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | | 3 / 4 ・ <u>1 / 2</u> | |
| 見守り機器の導入日 | | 見守り機器の製品名 | |
| 令和3年12月24日 | | 「眠りSCAN (NH-1320)」 | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年12月20日 | インカム4台 | 令和4年2月14日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| <p>【見守り機器の使用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「眠りスキャン」導入のため、施設内（特養）のどこにいても情報を拾い上げることが出来るよう、Wi-Fi環境を整えた。 ・「眠りスキャン」にインカムを連動させた。 | | | |
| <p>【整備効果】</p> <p>(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境を整えたことで、「眠りスキャン」および「インカム」の通信がスムーズに行えており、既存の記録用ソフト端末タブレット操作や施設内ネットワークもより円滑に行えるようになった。 ・インカムを「眠りSCAN」に連動させたことにより、アラート情報をわざわざパソコン画面で確認することなくタイムリーに把握できるようになった。また、ハンズフリーのため介護業務中も手を止めることなく情報把握ができるようになった。 ・インカムはコミュニケーションツールとしても非常に有効で、看護師との連携やユニットを越えた介護サポート依頼も迅速に行えるようになった。介護動線が格段に短縮されスタッフの負担が軽減されている。また、容易にサポートし合える体制になったことによりスタッフの連帯感も高くなったように感じる。 | | | |

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (医療法人 和光会)
 事業所名 (介護老人保健施設 清風苑)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

| | | | |
|------------|--|------------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和3年11月24日 | 眠りスキャン NN-1320 エスパイアシリーズベッド KA-N1411H | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月30日 | | 令和3年11月30日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- 眠りスキャン
 認知症の利用者が大半を占める3階フロアにて使用。同じフロア内のナースステーションにモニタリング用のパソコンを設置し、いつでも利用者の様子を見る事が出来る。またスマートフォンも2台準備し、Wi-Fi環境を経由してスタッフはどこに居ても利用者の状況をリアルタイムに把握している。
- エスパイアシリーズベッド
 センサー内蔵のベッドを2Fフロアと4Fフロアでそれぞれ設置し使用している。各フロアにおいては、ナースコールの使用が難しい方やベッドからの起立時や車椅子への移乗時に転倒リスクが高い方を人選し使用している状況である。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)
 従来のセンサーマットは既設のナースコール設備に別売のアダプターを付け使用する事となっており、使用台数が限られる中で最低限必要な人のみの使用となったり、その都度センサーを移動させたりとスタッフの負担も多かった。またセンサーのコードやコンセントの使用口が多く必要となり、断線や故障頻度も多かった。今回、Wi-Fi環境が整備された事により、利用者の居室を限定する事無く、眠りスキャンやベッドを利用する事が可能となった。
 利用者を動かすのでは無く、ベッドやセンサーの移動のみで利用者の居室周りの環境は変える必要は無くなったので、慣れた環境での生活を継続する事が出来る事となった。
 介護ロボットの通信環境も特に不具合無く、リアルタイムに状況を把握する事が出来る為、事故の軽減やリスクの低下につながっている。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2.8:1 | 2.9:1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 2.5:1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| <p>昨年末からコロナの影響によりショートステイの利用者が大幅に減少した事に伴い、全体の利用者数が大幅に減少した事と、一方で今年に入ってから新規で看護・介護の入所者を確保できた事に伴い、人員体制（マンパワー）は充実する事が出来た。</p> | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>今までのセンサーマットでは、利用者の状態に応じてベッド上に設置するタイプや足元に設置するタイプを使い分けていたが、時には両方使用したり、また一時的に片方だけで良かったりとスタッフも設置に関する時間的な労力が非常に多かった。また誤報も多く、頻繁に居室を訪問するも必要の無い訪問だったりする事が多かった。今回の新たなセンサーではベッド上での設置で様々な設定が可能である為、センサーの付け替えや誤報時等の無駄な作業時間を大幅に減少でき、この時間をケア記録の作成やミーティングの時間に使う事が出来る様になった。</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>センサーの誤報等により訪室が必要で無い方の部屋を訪問する事が減る事や、コール音による同室者の睡眠を妨げたりという事が減少した為、利用者の安眠確保につながる事が出来た。また職員自身も不要なラウンドを減少させる事が出来た為、ステーションでの事務作業や記録に取り組む時間を確保できる様になった。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>全館にWi-Fiを設置する事が出来た為、全てのフロアで場所を問わず眠りスキャン等の介護ロボットを使用できる事となった。今までは入所者の病状や状態に応じてフロア移動等を行っていたが、今後はその必要もなくなり業務改善につながる事が出来た。</p> <p>またもう一つの大きな効果として、昨年より家族とのリモート面会を実施している中、今までは有線LANの場所でしか出来なかったリモートが、Wi-Fi環境が整備出来た事に伴い、利用者の居室内や談話室等、場所を問わず面会が出来る事となり、慣れた場所での面会がリアルタイムに出来る事となった。</p> | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人順明会)
 事業所名 (介護老人福祉施設 ジャルダン・リラ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年12月1日 | 眠りSCAN | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月5日 | | 令和4年3月15日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

現在、夜勤時に2ユニットで1名の夜勤配置を行う為に、1階と2階のユニットの組み合わせのあるグループのユニットに使用しています。看取り介護等で夜間に状態観察が必要なご利用者様、転倒の恐れのある利用者様へ使用しているところです。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等)

介護時間の短縮について…夜間の見守りで1階と2階を定時で行き来していた巡視をご利用者の状態に合わせた随時の巡視が出来るようになった。

直接・間接の軽減効果…夜間帯に24時間シートなどご利用者に係る事務仕事をする時間を増やすことが出来た。

介護従事者の満足度…夜間帯に階段を何度も行き来するのが辛いと考えていた高齢の介護従事者の負担が減り、夜勤の勤務をこれからも長期間継続できることとなった。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 3.1 : 1 | 2.9 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 変化なし | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 現状、奇数ユニットが存在することから人員基準を下回る配置となる為、困難。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| スマートフォンを活用して介助中であっても異常を知ることが出来るようにした。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| 利用者の睡眠状態を可視化することが出来るので夜間の不眠状態が分かり、日中活動の計画に活かすことが出来る。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 体調不良のご利用者様へ使用することにより急変時において早急な処置・対応を行うことが出来ると考えております。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人 悠)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 結いの郷)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

| | | | |
|------------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月24日 | 眠りスキャン NN-1320 | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月30日 | インカム 12台 | 令和4年3月24日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

- (1) 事業所内に Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフトの導入。各ユニット内 (3 ユニット+看護) にてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする
- (2) 職員間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカムを 12 台導入予定。また、イヤホンジャックについては、各職員向けにて用意
- (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と導入を予定している介護記録ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動することから、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減も併せていく。

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等)

- (1) 間接支援の軽減 (記録、職員間のコミュニケーションの情報共有) を目標とする。
- ☛ 記録ソフト導入に伴い、間接業務の時間的軽減に繋がっている。また各職種の一斉閲覧が可能であり、情報の共有化は今のところ効果は大きいと捉えている。
 - ☛ インカム導入に伴い、情報発信の一斉連絡が可能であり、有事災害時においても効果は大きい。
- (2) 間接支援の軽減に加え、直接支援の質の充実を目標とする
- ☛ 日勤帯において、研修機会の充実 (事業計画書内に記載)、キャリアコンサルタントによるセルフキャリアドック導入し、支援員への面談の機会を増やす。メンタルの充実を図り、日々の支援の充実を施したい。
 - ☛ 夜間帯において、十分な休憩時間の確保が出来た
- (3) 職員に対する間接支援の軽減に伴う満足度アンケートを導入半年後、1年後と行う。
- 質の向上に繋がる結果として、入居者及びご家族に対しても満足度アンケートを半年後、1年後と行う
- ☛ 令和4年10月、令和5年3月に実施予定
- 従来介護記録を手書きで行ってきた。また、各種計画書類もそれぞれ独自の Excel にて連動性に欠けていたため、今回導入に伴い、それぞれの間接支援を軽減することで、職員一人一人が直接支援に集中できる環境を準備したい。結果、事業所全体における質の向上を目的として、暮らす場所における入居者 QOL の向上に努めていきたい。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 1.62:1 | 1.5:1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 1.6:1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 現在、採用活動中 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <p>当事業所においては、ユニット型特別養護老人ホームであり、3ユニット/29人の入居者が過ごされています。</p> <p>3つのユニット（家）が分離されており、それぞれの玄関口より日中は出入りしております。また、夜間帯については、各玄関口を施錠し、内扉を利用して支援をさせて頂いております。</p> <p>日中、各家が独立していることから、インカムを活用して、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていきたい。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト導入することで、ケアプラン⇒24Hシート⇒生活記録の一連の流れを通して、間接支援の軽減に努めていきたい。各ユニット（家）内で、i-padを活用し記録の記載を行う。また、「ほのぼのシリーズ」「ケアパレット」にてホストコンピュータとの記録の連動を行う。眠りスキャンにおいて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努める。結果、直接支援の質の担保に繋げていく。</p> | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <p>現在、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して2名で行っている。眠りスキャンを始めとして、介護ロボットの積極的な利用にすることで、間接支援を減らし、直接支援を充実し、質の維持をすることで、職員一人一人の福祉のやりがいに繋げていきたい。結果、夜勤配置を3ユニット（29人）に対して3名体制を構築することで、未経験や新入職員にとっても安心して支援できる環境を整え、しっかりと休憩を取れるような体制に繋げていきたい。また、職員の定着に際し、間接支援を減らすことで、法定研修に加えて、基本的な介護技術、知識の研修など、未経験の職員においても、必要資格を取得していくための、社内研修の充実、社外研修への積極的な参加を以て、ひとり一人のスキルアップに繋げていきたい。</p> | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <p>上記にも記載の通り、介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。</p> <p>あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わる事が出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることで出来る環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わる事が出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。</p> | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (株式会社 安芳)

事業所名 (介護付有料老人ホーム永遠の郷)

サービス種別 (特定施設入居者生活介護)

| | | | |
|--|--------------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 ・ 1 / 2 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月24日 | 眠りスキャン (パラマウント製) ・パラマウントベッドエスパイアシリーズ | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和3年11月15日 | インカム 12台 | 令和4年3月24日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |
| 【見守り機器の使用状況】 (1) Wi-Fi 通信環境を整備し、介護記録ソフト、請求ソフトを導入。また各フロアにてタブレット端末使用による間接的業務の削減を目的とする (2) 職間の情報共有における移動時間短縮に備えて、インカム 12台導入。 (3) 眠りスキャン (パラマウント製) と介護記録ソフト、請求ソフト「ほのぼのシリーズ」と連動、センサーベッドを活用し、夜勤時における見守り軽減に加え、記録事務作業の軽減に繋がっている。 | | | |
| 【整備効果】 (介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者 (利用者) の満足度等) (1) 間接支援の軽減 (記録時間の短縮・職員間のコミュニケーションにおける動線の短縮) ☑ 記録時間として、手書き用紙を準備することがなくなり、導入直後の戸惑いはあるものの、間接時間の短縮に繋がっている。 ☑ インカム導入に伴い、情報の周知の簡略化、合理化が十分に図れている (2) 直接支援の質の充実を図る。加えて、時間内での勉強会・研修に時間を充てる。 ☑ 年間計画書における研修の機会を増加。1回/月 全職員での研修会実施予定 (3) 眠りスキャンの活用に伴い、夜間帯での休憩時間の確保 ☑ 30人の入居者に対して、2人の夜勤で対応しているが、今のところそれぞれの休憩が取れている。 (4) 満足度アンケートを導入半年後、1年度と行う ☑ 令和4年10月、令和5年3月に実施予定 従来介護記録を手書きで行ってきたため、間接支援を軽減することで、職員ひとり一人が直接支援に集中できる環境を準備。未だ導入したてではあるため、今後の効果に期待したい。 | | | |

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|------------------------------------|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 2. 0 : 1 | 1. 6 : 1 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 1. 8 : 1 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 継続的に採用活動中 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| インカムを使用し、職員の動線の短縮に努め、間接支援の軽減に努めていく。また、従来介護記録を手書きであったことから、介護記録ソフト、請求ソフトを導入することで、間接支援の軽減に努めていく。フロア内で、iPadを活用し記録の記載を行い、間接業務の簡略化を図る。眠りスキャンを用いて、夜間帯なかなか眠りが浅い方について、定時での訪室を行わず、安眠確保に努め、直接支援の質に繋げていく。また、休憩時間の確保に努める。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| 夜間帯の支援量を軽減することで、休憩時間の確保に努める。 また、職員の定着に効果を求め、研修、勉強会、そして資格取得支援への充実に繋げていく。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| 介護ロボット導入に伴い、人員配置を減少だけを目的とせず、未経験の職員でも、安心して支援できる環境づくり、専門職としてのスキルアップに繋がる効果を期待している。 あくまで間接支援の軽減に努めることで、直接支援を安心して、穏やかに、支援していく。結果、入居者とゆっくり関わる事が出来る環境を整えていきたい。介護福祉事業における離職の原因として、職員間のコミュニケーションが大半となっております。入居者ひとり一人とゆっくりしっかり関わることのできる環境を整えること、コミュニケーションの行き違いを出来るだけ減らすことで、離職率の低下に努めていきたい。また、未経験や無資格、新入職員が安心して入居者ひとり一人と関わる事が出来る環境（研修機会の増加、定着率の安定）を整えていくことが、結果質の維持を及び向上の効果を期待している。 | |

別添1 (通信環境整備用)

見守り機器の導入に伴う通信環境整備効果報告書 (その1)

法人名 (社会福祉法人フロンティア)
 事業所名 (特別養護老人ホームみなとの憩)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

| | | | |
|-----------|------------------------------|-----------|--------------------------|
| 適用を受けた補助率 | 3 / 4 | | |
| 見守り機器の導入日 | 見守り機器の製品名 | | |
| 令和4年3月25日 | 無線コールシステム「あんしんの絆」ワイヤレス人感センサー | | |
| 通信環境整備時期 | ※インカム機器、ウェアラブル端末を導入する場合は導入台数 | 整備完了日 | リースの契約期間 |
| 令和4年3月25日 | | 令和4年3月25日 | 令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで |

【見守り機器の使用状況】

○事業概要

- ・見守りシステムの導入により、見守り業務（特に夜勤帯）の業務効率の向上、利用者様の安心安全な住環境整備、介護職員の生産性向上ならびに負担軽減を図りました。
- ・強力な無線LAN環境を整備し、施設内全域において、見守りシステムと職員が保有する携帯端末が円滑にネットワークアクセス出来る通信環境を整備しました。
- ・見守りシステムは、ご利用者様にナースコール、またなんらかの移動、転倒等が起きた際に、自動的に職員が所持する携帯端末にアラートが鳴ると同時に、その5分前からの映像が自動に保存されるシステムです。
- ・また、事務所に設置されたモニターには、全居室に映像を逐一確認することができ、職員の生産性が向上し、かつ、ご利用者様の見守りの精度も上がりました。

○導入

- ・令和4年3月25日 導入日
- ・令和4年4月1日 準運用開始（シフト変更 2か月間試行期間）
- ・令和4年6月1日 夜勤2人体制に移行

【整備効果】

(介護時間の短縮、直接・間接の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等)

- ・ナースコールが同時発生した場合、瞬時に優先度を把握し、事故抑止につながっています。
- ・万が一事故が発生した場合、その原因分析を行い、再発防止策を講じることが出来るようになりました。
- ・不要な訪室を減らすことにより、利用者様がより質の高い睡眠を確保出来るようになりました。
- ・当初、不安に思っていた職員もシステムの安全性を理解し、質の高い介護サービスを提供できるようになりました。

※これより下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合のみ記入すること

| | |
|--|---|
| ① 従前の介護職員等の人員体制 | ② 導入計画策定時における通信環境整備後に見込む介護職員等の人員体制 |
| 深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 1人 4階 1人 | 深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人 |
| ③通信環境整備後の介護職員等の人員体制 | |
| 深夜帯（20時～翌7時）における人員体制 2階 1人 3階 0人 4階 1人 | |
| ②と③が異なる場合はその理由 | |
| 予定通りに、人員削減につながりました。 | |
| 見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用した人員体制の効率化のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・無線コールシステム「あんしんの絆」の最大の特徴は、ナースコール呼び出し時において、同時進行的に居室の可視化を図ることにより、職員が訪室の優先度を施設のどの場所においても、瞬時に判別できることにあります。 ・特に夜勤時において、当該職員は、手持ちの携帯端末を外線電話と連動することにより、施設外線電話、ナースコール、居室内の状態確認が、瞬時に対応出来ます。また、素早く訪室することにより、転倒転落事故を未然に防ぐことも可能となり、一人一人の職員の介護サービスの質が飛躍的に向上すると同時に、生産性向上にもつながりました。 ・結果として、当施設では、これまで原則、1ユニット1名（施設全体3ユニット3名）の夜勤職員体制をしてきましたが、本システム本格導入後、夜勤体制の人員を削減しても、より質の高いサービスが提供出来ることを前提に、事業所全体3ユニットで2名の夜勤職員体制に移行することができました。これによって、施設全体の職員の労務負担を軽減出来ると同時に、シフト削減によって 削減された人件費は、夜勤職員に配分すると同時に、施設職員福利厚生費に充当しました。 | |
| 利用者のケアの質の向上や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減のために実施した具体的な取組 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・携帯端末から、利用者様の状況を適宜映像で確認することにより、不要な訪室を削減することが出来ます。これによって、利用者様の睡眠の質が向上し、当社が目標とする「夜間ぐっすりプロジェクト」を推進することができるようになりました。 ・「夜間ぐっすりプロジェクト」とは、医師と連携協力し、利用者様に質の高い睡眠をとっていただき、生活リズムを整え、より健康的に暮らしていただくことを目指す取り組みです。 ・結果的に本プロジェクトの推進により、夜勤職員の労務は軽減され、見守り業務に徹することにより、効率的に休憩時間を確保することが出来ることになりました。 ・また、本システム導入により、万が一発生した居室内の転倒転落事故に対し、その原因分析を具体的にまた速やかに実施し、再発防止策を講ずることが出来るようになり、結果として、行政、医療関係者、家族様に的確に状況を説明させていただき、より安心していただくことが可能となりました。これにより、事故対応に要していた人員、時間の削減ができました。 | |
| これらの取組による改善状況又は今後改善が期待できること | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・総合的に見守り体制が強化され、昼夜を問わず、ナースコールによって利用者様と職員が密にコミュニケーションを図ることが出来、介護サービスの質の向上につながりました。 ・ご利用者様の転倒・転落のメカニズムを探ることも可能となり、事故防止、より効果的な再発防止策を講じることが可能となりました。 ・本システムが、一人夜勤体制の職員をある意味、監理監督する役割も果たし、職員の意識改革、業務改善（業務怠慢の抑止）を促すことになりました。 | |